

市民活動状況
(1月末日現在)

市内NPO法人数	32 団体
当センター登録団体数	138 団体
来館者数	1,183人
印刷機利用枚数	8,364枚

ひびき

発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之



龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。
会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や
大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。
開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。
休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日
〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571
E-mail katsudou@r-shimin.sakura.ne.jp URL https://ryugasaki-shiminkatsudo.net



市民団体活動紹介シリーズ No.30「龍龍中国語勉強会」

目指せ！市民活動日本一

ろんろん

「龍龍中国語勉強会」は6年前から始まり、現在10名で活動しています。

中国出身の講師は中国語教育の国家資格を持ち、31年教えてきました。とても丁寧に教えてくださいます。

「龍龍」では、中国語の発音や文法中国語会話だけではなく、中国の歴史、地理、文化、習慣なども、広く知識が身につきます。また、ウォームアップに、中国の歌や、漢詩の朗読、中国語を使ったレク、ゲームも多く取り入れています。

「中国語の美しい発音に魅了された」「中国の文化をもっと知りたい」「いつか中国に旅行に行きたい」「学習歴があるが、やり直したい」「何か習い事をしたくて」「同じく漢字を使う隣国の中国の言葉も悪くないと思って始めた」などなど、それぞれのきっかけと目的で「龍龍」に入会した仲間がいます。

どの方も、思いやりがあり、お互いに尊重しあい、「龍龍」は学びの場だけではなく、交流の場ともなっています。

「龍」は我が町・龍ヶ崎のシンボルであり、中国文化で中華民族のシンボルでもあります。そして今年は、「龍」の年。

「龍龍」の教室を覗いてみませんか。

ほあんいんほあんいん

「歓迎歓迎」!

問い合わせ:馬 延冬(マー イェンドン)

080-3014-3235



龍ヶ崎歴史第18回「住井すゑが描く佐貫駅」

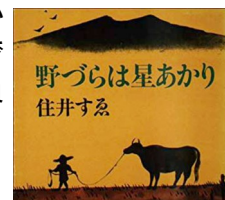
住井すゑ著「野づらは星あかり」に描かれた終戦直後の佐貫駅の描写。

要吉は竜鉄に乗りつぐ人たちを暫くの間、ただぼんやりと眺めていた。するうち、二輛連結の竜鉄は、ポーツと汽笛を鳴らせて動きはじめた。あとは常磐線の upper を待つらしい男女十五、六人。年齢はまちまちながら、みな申し合わせたように食糧らしい大荷物を背負ったり、抱えたり-----。(原文を引用)

これは、戦地から復員したばかりの要吉が、常磐線佐貫駅に降り立ち、ぼんやりと竜鉄へ乗換える人たちを見ている描写となっています。当時の常磐線佐貫駅舎は、駅の壁に木製のベンチが造り付けられていて奥行きがあって、内部は薄暗く、駅の中から、竜鉄側に明るく広がる田園風景を見ることが出来ました。おそらく、住井すゑはそんな佐貫駅の雰囲気特別な愛着を感じていたようです。彼女が同じく牛久沼周辺を描いた名作「向い風」でも、主人公の健一は最寄り駅牛久を避けて佐貫駅に降り立っています。

関東鉄道竜ヶ崎線、愛称竜鉄は佐貫～竜ヶ崎間、途中一駅という僅か4.5kmの短いローカル鉄道。この小説の昭和20年頃は鹿島参宮鉄道の傘下で、二両連結の蒸気機関車が走っていました。そして、佐貫駅は常磐線の改札口と竜鉄の改札口が一直線になっていて、常磐線が到着すると、二つの改札口を結ぶ人の列が出来て、なかなか竜鉄の方へと進めなかったのです。龍ヶ崎は茨城県南の中心的な商都として古くから賑わっていて、そのため佐貫駅に列車が着くたびに改札付近は人がごった返していたのです。その中には商人もいれば、買い物婦りの主婦や学生、それらに混じって、戦地からの復員兵もいたのでしょう。

駅のベンチに腰掛けて、そんな光景を暫く眺めていた要吉でした。



2月4日(日)市民活動マネジメント講座「市民活動のための自主財源拡充のコツ」報告

講師: 認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ常務理事・事務局長 大野 覚氏

10名が受講しました。今日は助成金に頼らないで安定財源を確保するために自主事業や寄付の話をしていきます。寄付はコツコツやれば、ハードルは高くはない。丁寧な情報発信が前提だが、前触れなく多額が入ることがある。(コモンズのHP参照!) 遺贈寄付はその人と団体との関係のベースがあって関係性が深まり最後に遺贈寄付がある。自主財源としては、製品やサービスのプロダクトとして、セミナー開催、パンやクッキー販売、カフェ運営、まち歩きツアー実施があるが、他の団体との違いを明確にする「差別化」が出来ているかがポイント! いかにして高付加価値化するか? ストーリーをしっかりと示すためには顧客への最適なサービスをマッチングできるかどうかにかかっている。高くても価値のあるものとは? 「エシカル消費」の意欲を喚起する! →消費者が社会的課題の解決を考慮したり課題に取り組む事業を応援しながら消費活動を行う。地産地消もその一つ。SDGsとの関連性、いいものをいいお値段で! 高くても価値のあるものとは何か? 希少性がある。今しか買えない期間限定。ストーリーがあり、丁寧に説明されている。ブランディングがされている。(どうせ買うならこのものを買いたいと思わせる。)

里山を活かした資金調達事例として、里山にある様々なものを掛け合わせて楽しむことを見出す。納屋を改修して里山ピザ販売。ペレット(ストーブ用)を作る。グランピング※(コロナ禍を経て感染を避けたグランピングが人気: 埼玉県ときがわ町)

「ペルソナ(組織が提供するサービスにとって最も重要な受益者像)・マーケティング」を取り入れる→受け手の人物像を具体的に設定(妄想する)して宣伝すると、的確に求めてやってくる。

人が共感し、心を動かされ、活動を応援しようと動くには「ストーリーを伝えること」が大事。

ストーリーを伝えきれていなければ、消費者は安い商品を選ぶ。購入することで地域にどんな価値が生まれるかを伝える。(高いなりの理由を示して顧客満足をしっかり得る。)

Q1: 利根町で子育て支援施設を運営し週4回ランチ・ドリンク(1,300円)を提供し、経費的にギリギリの状態を改善するには?

A1: 対価だけでやってトントンなら、応援してもらえる寄付を集めるとよい。活動の趣旨をメッセージとしてうまく相手に伝えることができれば、賛助会員制度を作って企業などから寄付を集めることができるのでは!

Q2: NPOについて知りたい

A2: メリット、デメリットがある。NPO設立説明会が3/5ここで開催され、大野講師が解説するので、参加してください。

※グランピング: グラマラス(魅力的な)とキャンピングを組み合わせた言葉。



講座のお知らせ

龍ヶ崎まちづくり講座

「建築意匠系の学生から見た 行ってみたくなる古民家活用事例」

古民家・空き家の改修事例を示しながら、龍ヶ崎市の古民家活用を考える。

講師は建築意匠系の研究室に在籍しながら設計活動を行っており、これまでに収集した改修事例と比較しながら、愛される古民家活用を行うためには、どのような空間性や機能が必要なのかを考えます。

講師: 石田 開かい氏(東京大学工学系研究科建築学専攻)

日時: 3月17日(日)午後1時30分～午後3時30分

場所: 龍ヶ崎市市民活動センター2階 パソコン室

申し込み⇒窓口または電話 0297-63-0030

※参加無料・スリッパ持参



龍ヶ崎短歌会

街角の吹く風さむしこの頃も人の心はいつも暖か

時代劇の勧善懲悪に溜飲を下ぐ魍魎魍魎の世の隅に生き

中村 雅彦

日野林 佐智子